



オリーブ通信

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>



2022年
12月号
2022.12・3 発行
第249号



ウチェプ ワヒド モラナ
(インドネシア)



柴 旭 超
サイ チュウシャオ
(中国)

中川先生のへんてこ日本語

147



前の方に続けて：

いつもの駅から電車に乗ると、「前の方に続けて、車内中ほどまでお進みください。」と、車掌さんのアナウンスが聞こえてきた。動詞の自/他の間違いで、「前の方に続けて：」としなければならぬ。「続けて：」だったら、前の方が車内に入り、その次の方が車内中ほどに進むということになってしまう。

電車のアナウンスのモデル文がそうになっていたわけでもないだろうが、次の駅でも同じアナウンスだったので、その車掌さん、かなりの確信犯なのだろう。

先生が、「私のあとに続けて読んでください」というと、学生は、先生の発話をリピートするだろうが、「私のあとから続けて：」という、先生が読んだ続きを学生が読むことになる。大相撲の千秋楽の国歌斉唱の際には、「前奏に続けてご唱和ください」というが、これは正しい。

この手の動詞自/他の間違いは、日本語学習者がよく犯す。殊に自/他の区別を持たない中国語母語話者などに間違いが多い、「これから私の発表が始まります」「先生、ドアを閉まってもいいですか」等々。こんな間違いに慣れているためか、先の車掌さんのアナウンスにも敏感に反応してしまう。一種の職業病だろうか。

授業に遅刻してきた留学生が、「途中で電車止めてしまつて：」と理由を述べてきた。「えっ、急病ですか」と聞きたくなる。日本語教師なら分かるだろうが、日本語教育の経験のない人には、大変な誤解を生みそうである。

動詞の自/他の指導には、時間がかける(かかる)。次号に続ける(続く)。

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄

オーブ 秋の遠足 2022 は

竹生島・長浜へ

2022年11月20日(日)、オーブ会員 28 名+子ども1名で、竹生島と長浜観光に出かけました。大雨が予想された中、意外にも雨は降らず、時折日も差す日和でほっと一安心。

8時45分草津駅改札口集合、9時2分の電車に乗ります。9時58分長浜着。

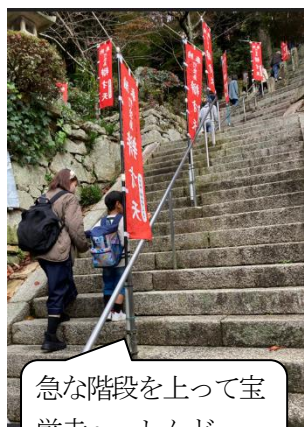
長浜港まで歩き、まずは船に乗って竹生島へ。

デッキで外を眺めたり、水鳥を見たり思い思いに過ごします。



船は約30分で竹生島に到着

竹生島についたら、みんなで記念撮影。それから急な階段を上って宝厳寺から都久夫須麻(つくぶしま)神社へ。竹生島全体は木々に覆われていて、観光客は島全体のほんの一部のお寺と神社の所しか歩くことができません。「お寺や神社に興味を持ってもらえるかなあ」と心配でしたが、予想に反してみんなあちこちを丁寧に見入っていました。本堂では長いこと祈りをささげる学習者さんのすがたもありました。



急な階段を上って宝厳寺へ。しんど～



宝厳寺は724年建立の歴史あるお寺。ご本尊は弁才天。

手水の作法を教してもらって練習。えっと、まず左手に水をかけて。



不動明王にお参り



宝厳寺唐門は秀吉が建てた大阪城から移築されたという国宝。修復直後?で、とてもきれい。

願い事を書いたかわらけが、あの鳥居の間を通ると願いが叶う、とか。



え〜い、飛んでけ〜



帰りの船では、みんないっしょにデッキへ。行きの船よりも、だいぶ距離が縮まってきた感じがします。

さて、長浜に帰り着いたらもう1時。まずはランチへ。それぞれ分かれてお店に入ります。お蕎麦組、鯖そうめん組、飲茶組などなど。遅めの時間だったおかげで、待たずに入店できました。お味はどうだったかな？



長浜名物、翼果楼の鯖そうめんと焼き鯖寿司。おいしそう！

そのあとは長浜のお店を見て回り、16時20分長浜駅に集合して帰りました。電車に乗り、船に乗りと移動が長かったおかげで、スタッフや学習者さんとゆっくりにお話をすることができ、授業に追われて語り合う機会もなかった仲間のことをいろいろ知ることができました。(私の方向音痴も知られてしまいました) つぎの授業から「こんばんは！」と親しげに挨拶する人の数がきっと増えることでしょう。



竹生島船着き場にて

最後に 学習者さんの感想を紹介します。

「たのしかったです。いい景色を見たり、船に乗ったり、することができます。」

「日本に来てはじめてもみじを見ます(見ました?) いろいろな人とあった。」

「けしきがとてもきれい。たくさんしゃしんをとりました。あたらしいいいところをりました。」

「おもしろかったです。けしきもきれいです。でも、あしがつかれちゃった。」

「たのしかった。おてらをみるのがおもしろかった。」

たのしい思い出ができたようで何よりです。(フクイ)



先月の活動(11月)

日本語教室 11/5(M), 12(M), 19(M) (3回)
 11/1 (火) 第2回外国人支援団体の集まり (恩地)
 11/20 (日) オリーブ遠足



今月の活動予定(12月)

日本語教室 12/3, 12/10, 12/17(M), 12/24 (4回)

24日もミーティングがあるかもしれません。

●日本語教室の(M)は定例ミーティング

●()内は参加者、または参加予定者。敬称略



参加人数(11月)

	11/5	11/12	11/19
学習者	31人	20人	24人
先生	26人	25人	22人



会員の動き (11月)

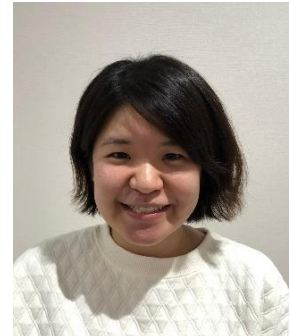
〈入会〉 HUANG YIBO (コウ イボ)

李 思佳 (リ シカ)

山本 利恵

〈退会〉 なし

立命館大学の趙さんの紹介で、中国からの留学生二人がスタッフとして入会してくれました。



HUANG YIBO

(コウ イボ)

上海出身です。趣味は旅行で、いろんなところに行ったことがあります。次は日本の東北に行きたいです。

李 思佳

(リ シカ)

重慶出身です。趣味は旅行です。日本の北海道が一番好きです！

山本 利恵

母親の紹介です。

コロナで人とあまりかかわらなくなったので、人ともっとかかわる時間を作りたいと思い、入会しました。

編集後記 今回は本を一冊紹介します。

『パンツを脱いだあの日から 日本という国で生きる』

著者のマホムッド・ジャケルさんは、1972年、バングラデシュ独立戦争中に生まれ1994年に来日。アジアの最貧国と言われたバングラデシュで青春を過ごし、出稼ぎも兼ねた外国人留学生として日本語を学び、在学中にバングラデシュの現状を訴えたスピーチで、「留学生日本語弁論大会」NHK大阪社長賞を受賞。現在は仕事の傍ら、バングラデシュ人留学生に日本生活情報支援を行っています。私の関わるボランティアでよく顔を合わせますが、いつも全力で事に当たっていく熱い人です。題名は、日本で初めて銭湯に行ったとき、番台のおばさんから「パンツを脱ぎなさい」と叱られ、文化の違いに涙しつつ日本で生きる決意をしたというエピソードに基づきます。現在は日本に帰化しています。あまりよく現状を知らないバングラデシュのこと、イスラム教のこと、日本で働く外国人のことを生きた人間を通してリアルに理解できる本だなと、私は感じました。

興味をお持ちの方があれば本をお貸ししますので、声をかけてください。

(フクイ)

